

姿と恣と盜

—新常用漢字表字体の源流—

安岡孝一*

2009年1月29日、文化審議会は「新常用漢字表(仮称)」に関する試案を承認しました。常用漢字表1945字から「勺」「錘」「銑」「脹」「刃」の5字を削除し、代わりに191字を追加した、2131字の漢字表です。今後、さらに審議を進め、2010年の答申を目指しています。

しかし、文化審議会は、新常用漢字表(仮称)試案を十分に審議しているとは言いがたい状態です。特に、2131字の漢字の字体を比較すらしていない[†]、というのが実情のようです。それが端的に現れているのが「次」の字体です。

次	ジ	次回, 次元, 目次	← 継ぐ
	シ	次第	
	つぐ	次ぐ, 次いで [副]	
	つぎ	次, 次に, 次々と	

新常用漢字表(仮称)試案の「次」の字体

新常用漢字表(仮称)試案の「次」の字体は、常用漢字表(国語審議会答申、1981年3月23日)に比べて、「にすい」の形がイマイチ「にすい」っぽくないデザインとなっています。

次	ジ	次回, 次元, 目次	↔ 継ぐ
	シ	次第	
	つぐ	次ぐ, 次いで [副]	
	つぎ	次, 次に, 次々と	

常用漢字表の「次」の字体

もちろん、「次」の字体が違うというだけなら、単にデザイン差ということで片付ければいいのですが、実は、そう簡単な話でもないのです。新常用漢字表(仮称)

*京都大学人文科学研究所附属東アジア人文情報学研究センター

[†]安岡孝一: 新常用漢字(仮称)試案の字体における問題点, 東洋学へのコンピュータ利用, 第20回研究セミナー(2009年3月27日), pp.47-92.

試案には、部分字体に「次」を含む漢字が7つあるのですが、それらにおける「に
すい」の形が、はっきり言ってバラバラなのです。

新常用漢字表 (仮称) 試案	茨姿恣資諮次盜
常用漢字表	姿 資 諮 次 盜

新常用漢字表(仮称)試案の字形を、よく見比べてみて下さい。「姿」と「恣」と
「盜」のデザインを比べると、かなりバラバラになってしまっているのを、はっき
り見て取ることができます。どうして、こんなおかしなことになってしまったの
でしょう。本稿では、その謎に迫ることにいたします。

JS 平成明朝 W3[JISX0213:2004]

新常用漢字表(仮称)試案 2131 字のうち、2130 字[‡]は、JS 平成明朝 W3[JISX0213:
2004] で印刷されています。JS 平成明朝 W3[JISX0213:2004] は、ジャストシステ
ムが『一太郎 2005』ユーザに無償配布したフォントです。『一太郎』にバンドルさ
れていた JS 平成明朝体 W3 の一部の字形を、JIS X 0213 改正(2004 年 2 月 20 日)
に合わせて変更したものです。

新常用漢字表 (仮称) 試案	茨姿恣資諮次盜
JS 平成明朝 2004	茨姿恣資諮次盜

しかし、なぜ、JS 平成明朝 W3[JISX0213:2004] などというマイナーなフォント
を、新常用漢字表(仮称)試案の印刷に用いたのかは、正直なところ謎です。謎で
すが、あえて想像を膨らませるならば、文部科学省では『一太郎』のユーザがか
なり多い、ということが一因となっているのではないかと思います。すなわち、
『一太郎』を使って、JIS X 0213:2004 の規格票字形を、できるだけ再現しようと
したのではないか。そのためには、JS 平成明朝 W3[JISX0213:2004] でフォントを
揃えるのが、手早かったのではないか。そういう想像を筆者はしてしまうのです。

[‡]2131 字中「剝」だけが Batang で印刷されています。ちなみに、新常用漢字表(仮称)試案の
カッコ書きの旧字 364 字のうち、337 字が JS 平成明朝 W3[JISX0213:2004] で、26 字が Batang で、
1 字が MS 明朝(ver2.31 あるいは ver3.00)で印刷されています。

JS 平成明朝 2004	茨姿恣資諮次盜
JS 平成明朝 1997	茨姿恣資諮次盜
JIS X 0213 2004	茨姿恣資諮次盜
JIS X 0213 2000	茨姿恣資諮次盜

平成明朝体 W3

では、なぜ、JIS X 0213:2004 の規格票字形を、新常用漢字表 (仮称) 試案は再現しようとしたのでしょうか。それは、JIS X 0213:2004 の規格票字形が、表外漢字字体表 (国語審議会答申、2000 年 12 月 8 日) を忠実に反映しているからです。

JIS X 0213 2004	茨姿恣資諮次盜
表外漢字 字体表	茨 恣
JIS X 0213 2000	茨姿恣資諮次盜
JIS X 0208 1997	茨姿恣資諮次盜

JIS X 0213 の規格票は、平成明朝体 W3 で印刷されています。また、表外漢字字体表においても、平成明朝体 W3 が印刷に使用されました。その際に「茨」など一部の字形が変更され、その結果、JIS X 0213 も 2004 年 2 月 20 日に改正されています。

平成明朝体 W3 は元々、JIS X 0208 の 1990 年 9 月 1 日改正に向けて、文字フォント開発・普及センターが製作したフォントです。平成明朝体 W3 はリョービイマジクスがデザインしましたが、その字体は、JIS X 0208 の旧版である JIS C 6226

JIS X 0208 1990	茨姿恣資諮次盜
JIS C 6226 1983	茨姿恣資諮次盜

規格票(1983年9月1日版)の印刷字形を模していました。ただ、「にすい」の形に関しては、JIS C 6226の印刷字形に比べ平成明朝体W3のデザインは、下画をより強調しているように思われます。

JIS C 6226の規格票字形

JIS C 6226には、大きく分けると1983年9月1日版と1978年1月1日版があるのですが、いずれの規格票も、写研の石井細明朝体で印刷されています。1983年9月1日のJIS C 6226改正は、常用漢字表(1981年10月1日内閣告示)に対応するためのものですが、JIS C 6226の規格票字形を常用漢字表に合わせた形跡はありません。

JIS C 6226 1983	茨姿恣資諮次盜
常用漢字表	姿 資諮次盜
JIS C 6226 1978	茨姿恣資諮次盜

そもそも、JIS C 6226-1978の原案作成委員会は、ウロコのない等線体を、規格票の印刷に使用したかったようです。しかし、第1水準漢字2965字はまだしも、第2水準漢字3384字まで等線体の字母が揃うはずもなく、結局、写研の厚意によって、規格票の版下を作成してもらったという経緯があります。その際、当時もっとも多くの字母が揃っていた石井細明朝体を、JIS C 6226-1978の規格票に使用したのは、写研としては当然の判断だったと言えるでしょう。

石井細明朝体

石井細明朝体の各文字の字形は一種類だけではなく、印刷用途に応じて、複数のバリエーションがあったようです。字母を多く含む書籍の代表として、いくつか辞典類を見ていくことにしましょう。

JIS C 6226 1983	茨姿恣資諮次盜
机上辞典 デラックス	茨姿恣資諮次盜
広漢和辞典	茨姿恣資諮次盜 姿 資 諮 次
JIS C 6226 1978	茨姿恣資諮次盜
大漢和辞典	茨姿恣資諮次盜 次
机上辞典 増訂版	茨姿恣資諮次盜

『机上辞典』(デラックス全面改訂版、1982年10月25日発行)の巻末には、「五種類別字形配列総画索引」という漢字表が掲載されていて、石井細明朝体で印刷されています。しかし、JIS C 6226の石井細明朝体とは、たとえば「茨」の字形が違います。あるいは、『広漢和辞典』(1981～1982年発行)の見出し字は、全て石井細明朝体で組まれていますが、草かんむりは4画で、「姿」「資」「諮」「次」には「旧字体」が併記されています[§]。『大漢和辞典』(1955～1960年発行)の見出し字も、全て石井細明朝体で組まれていますが、基本的に全て「旧字体」です。

さらに遡って、『机上辞典』(増訂版、1957年10月15日発行)の「総画引き常用

[§]「盜」には「盜」が併記されていますが、「にすい」ではないので掲げていません。

漢字表」の石井細明朝体は、ほぼ全ての字形が JIS C 6226-1978 の第 1 刷 (1978 年 2 月 1 日発行) と、全く同じに見えます。すなわち、JIS C 6226-1978 に用いられた石井細明朝体のうち、漢字約 4500 字については、1957 年に組まれた「総画引き常用漢字表」の段階で、すでに字母が揃っていたと考えられます。

1957 年には常用漢字表はまだ存在しませんから、石井細明朝体は、当用漢字字体表 (国語審議会答申、1948 年 6 月 1 日) に沿ってデザインされたのではないかと、筆者は考えています。特に「次」の字体に関しては、常用漢字表より、むしろ石井細明朝体の方が、当用漢字字体表に近いのではないかと。筆者には、そう見えてしまうのです。だとすると、新常用漢字表 (仮称) 試案の字体の源流は、当用漢字字体表だと考えることもできるでしょう。

新常用漢字表 (仮称) 試案	茨姿恣資諮次盜
常用漢字表	姿 資 諮 次 盜
机上辞典 増訂版	茨姿恣資諮次盜
当用漢字 字体表	姿 資 諮 次 盜

大蔵省印刷局書体

常用漢字表は、いわゆる大蔵省印刷局書体で印刷されています。ただし、常用漢字表の原案である新漢字表試案 (国語審議会報告、1977 年 1 月 21 日) は、石井細明朝体で印刷されていました。

常用漢字表	姿 資 諮 次 盜
常用漢字表案	姿 資 諮 次 盜
新漢字表試案	姿 資 諮 次 盜

新漢字表試案の石井細明朝体を、常用漢字表案(国語審議会中間答申、1979年3月30日)で大蔵省印刷局書体に変更し、常用漢字表も大蔵省印刷局書体を踏襲した、という経緯があるのです。

大蔵省印刷局書体は、当用漢字改定音訓表(国語審議会答申、1972年6月28日)にも用いられていますが、常用漢字表とは微妙に字形が違います。あるいは、『当用漢字・現代かなづかい』(大蔵省印刷局、1958年2月20日発行)も、やはり大蔵省印刷局書体ですが、「にすい」の下面が強くはね上がっている印象を受けます。「にすい」に関しては、当用漢字字体表に捉われることなく、あえて大胆にデザインしたということかもしれません。すなわち、一口に大蔵省印刷局書体と言っても、単一のデザインというわけではなく、国語審議会答申など用途に応じて改鋳を重ねるたびに、それぞれ微妙に字形が違っているということなのでしょう。

常用漢字表	姿 資 諮 次 盜
当用漢字改定音訓表	姿 資 諮 次 盜
当用漢字・現代かなづかい	姿 資 諮 次 盜
当用漢字字体表	姿 資 諮 次 盜

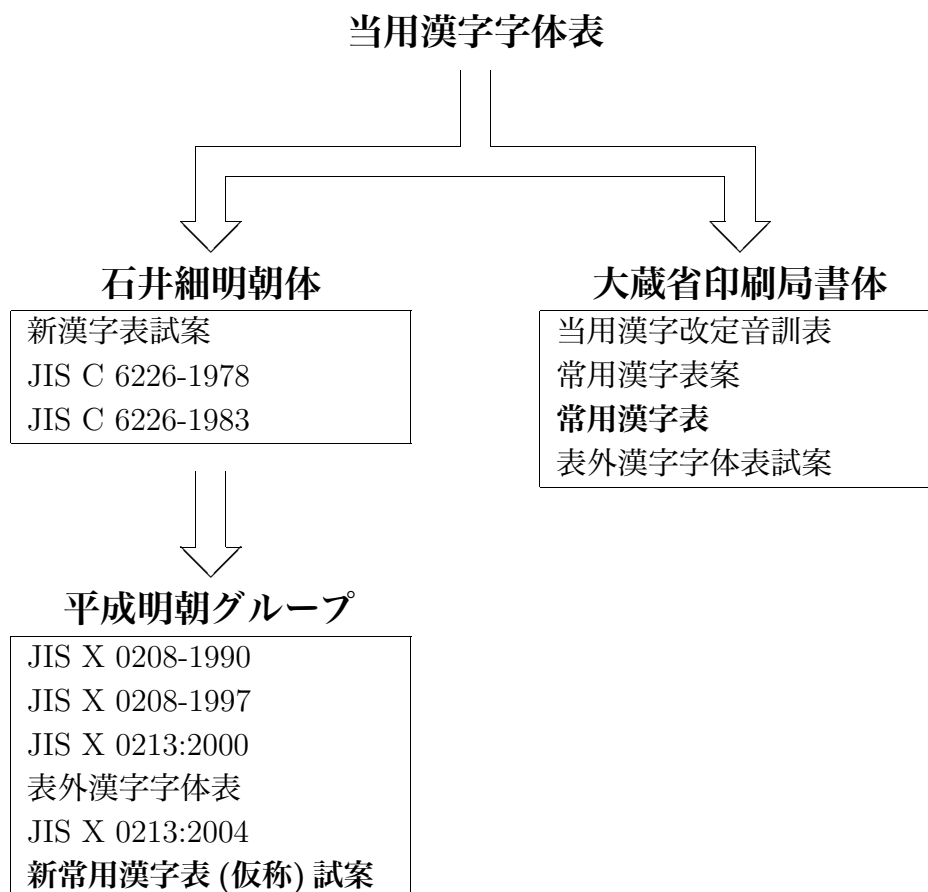
ちなみに、表外漢字字体表試案(国語審議会報告、1998年6月24日)も、大蔵省印刷局書体で印刷されていました。ただし、表外漢字字体表は平成明朝体 W3で印刷されており、その意味では、国語審議会は20世紀の最後に大蔵省印刷局書体を捨てた¹⁾、ということになります。

表外漢字字体表	茨 恣
表外漢字字体表試案	茨

¹⁾官報も、1999年3月に大蔵省印刷局書体を捨てて、MF平成明朝体 W3に切り換えています。

常用漢字表 vs 新常用漢字表 (仮称) 試案

ここまでをまとめると、大蔵省印刷局書体も石井細明朝体も、どちらも当用漢字字体表を明朝体として表現したものでありながら、その解釈の違いがデザイン差となって現れた、と考えられます。さらに平成明朝体 W3 が、石井細明朝体のデザイン差を極端な形で踏襲してしまったために、大蔵省印刷局書体との差がさらに拡がってしまった、ということでしょう。



その結果が、常用漢字表と新常用漢字表 (仮称) 試案のデザイン差として、かなり明確な形で現れたのです。しかもそれは、平成明朝体における「姿」と「恣」と「盗」のデザインポリシーの差を、浮かび上がらせることにも繋がりました。では、これらの問題を放置したままでいいのでしょうか？

実は、文化審議会国語分科会は、この問題の存在に気づいています。それは、新常用漢字表 (仮称) 試案の「はじめに」に、次の文言があることから明らかです。

また、本試案においては、仮称のままとしている「漢字表の名称」の問題や、漢字表に用いるフォントの詳細な検討など、更に審議すべき課題が残されている。これらについては、次期の分科会において継続して審議を行い、答申としてまとめていくことを予定している。

ただ、問題の存在に気づいているものの、どう解決するかについては、現時点では審議すら始まっていません。多少おせっかいとは思いつつも、せつかくここまで調べたのですから、以下では、筆者なりの検討をおこなってみたいと思います。

漢字表に用いるフォントの詳細な検討

新常用漢字表の字形を常用漢字表と乖離させないためには、新常用漢字表を大蔵省印刷局書体で印刷すればいいはずですが、しかしながら、大蔵省印刷局書体は、すでにこの世に存在しません。活字が全て廃棄されてしまったからです。もちろん、スキャンして字母を起こす、という方法も考えられますし、筆者自身もトライしてみたのですが、スキャン精度をかなり上げてみてもギザギザやカスレが残ってしまい、アウトライン処理を手作業でおこなわざるを得ません。しかし、それを1945字全部に対しておこなった場合、だれがその品質を保証するのか、という問題に直面します。

やはり、現在、使用可能なデジタルフォントの中で、できるだけ常用漢字表に近いものを選択して、新常用漢字表の印刷に使う、というのが現実的なように思われます。とりあえず筆者の手元にあるフォントを、順に見ていくことにしましょう。

1. JS 平成明朝 W3[JISX0213:2004]

常用漢字表と比較した場合、JS 平成明朝 W3[JISX0213:2004] の字形は、非常に違和感があると言わざるを得ません。つまり、JS 平成明朝 W3[JISX0213:2004] で新常用漢字表を印刷すると、常用漢字表との乖離が大きくなるのは間違いありません。やはり、JS 平成明朝 W3[JISX0213:2004] を使用すべきではない、と考えられます。同様の理由で、平成明朝体 W3 も、新常用漢字表に使うべきではありません。

常用漢字表 + 表外漢字字体表	茨 姿 恣 資 諮 次 盜
JS 平成明朝 2004	茨 姿 恣 資 諮 次 盜

2. ヒラギノ明朝 Pro W3

Mac OS X に搭載されているヒラギノ明朝 Pro W3 も、常用漢字表を代替するという点では、非常に無理があるフォントのようです。Pro フォントなので、本来は Adobe-Japan1-5 を全てサポートしているはずなのですが、実際には CID=2253

と CID=13800 が同じ「次」のデザインになっていて、常用漢字表に合わせる事ができません。「姿」「資」「諮」についても同様です。

常用漢字表 +表外漢字字体表	茨姿恣資諮次盜
ヒラギノ明朝 Pro	茨姿恣資諮次盜 茨姿 資 諮 次

3. MS 明朝 (ver5.00)

Microsoft Windows Vista に搭載されている MS 明朝 (ver5.00) は、何と云うか、「にすい」の下面のデザインが極端です。常用漢字表の代替としては、かなり違和感のあるフォントです。新常用漢字表の印刷には、あまり薦められません。なお、文化審議会国語分科会は、第 39 回 (2008 年 7 月 31 日) の時点では、字種候補 (案) 資料の印刷に、幻の MS 明朝 (ver3.00) を使用していました。

常用漢字表 +表外漢字字体表	茨姿恣資諮次盜
MS 明朝 ver5.00	茨姿恣資諮次盜
MS 明朝 ver3.00	茨姿恣資諮次盜
MS 明朝 ver2.31	茨姿恣資諮次盜

4. 小塚明朝 Pro-VI R

小塚明朝 Pro-VI R は、Adobe-Japan1-6 を全てサポートしているので、かなり頑張れば、常用漢字表を代替できるように見えます。少なくとも「次」のグループに関しては、CID=13800 などを使えば、何とかなるようです。

常用漢字表 +表外漢字字体表	茨 姿 恣 資 諮 次 盜
小塚明朝 Pro-VI R	茨 姿 恣 資 諮 次 盜 茨 姿 恣 資 諮 次 盜 茨 姿 恣 資 諮 次 盜

ただし、他の文字に関して、常用漢字表との比較をおこなうと、やはりいくつか不満が残る字が見つかります。特に、「右はらい」と「とめ」で、デザインの異なる字が散見されます。この点が気になるようなら、小塚明朝 Pro-VI R で新常用漢字表を印刷するのは無理でしょう。

常用漢字表	医 炎 園 漆 肅 淡 返
小塚明朝 Pro-VI R	医 炎 園 漆 肅 淡 返

5. リュウミン Pro L-KL

微妙な差異はあるものの、リュウミン Pro L-KL は、常用漢字表のデザインを、かなり意識的に踏襲しているフォントです。「次」のグループに関しては、ほぼ問題ないように見受けられます。

常用漢字表 +表外漢字字体表	茨 姿 恣 資 諮 次 盜
リュウミン Pro L-KL	茨 姿 恣 資 諮 次 盜 茨 姿 恣 資 諮 次 盜

しかしながら、リュウミン Pro L-KL の「八屋根」のデザインルールは、常用漢字表とは異なっています。この点が気になるようなら、リュウミン Pro L-KL で新常用漢字表を印刷するのは無理でしょう。

常用漢字表	沿鉛翁穴公松訟
リュウミン Pro L-KL	沿鉛翁穴公松訟 沿鉛翁

常用漢字表	船総貧粉紛雰分
リュウミン Pro L-KL	船総貧粉紛雰分 船 雰

6. 戸籍統一文字

市販のフォントではないのですが、法務省の戸籍統一文字も、常用漢字表のデザインを非常によく踏襲しているので、できれば使用を検討すべきです。

常用漢字表 +表外漢字字体表	茨姿恣資諮次盜
戸籍統一文字	茨姿恣資諮次盜 茨姿 資諮次

「右はらい」と「とめ」に関しても、「漆」を除いては、ほぼ完璧なようです。

常用漢字表	医 炎 園 漆 肅 淡 返
戸籍統一文字	医 炎 園 漆 肅 淡 返

「八屋根」についても、うまく字体を選べば、ほぼ問題ないようです。

常用漢字表	沿 鉛 翁 穴 公 松 訟
戸籍統一文字	沿 鉛 翁 穴 公 松 訟 沿 鉛 翁 公

常用漢字表	船 総 貧 粉 紛 雰 分
戸籍統一文字	船 総 貧 粉 紛 雰 分 船

まとめ

「新常用漢字表(仮称)」に関する試案における「姿」と「恣」と「盜」のデザイン差を手がかりに、新常用漢字表(仮称)試案と常用漢字表のデザイン差を調査しました。もともと、いずれも当用漢字字体表が源となっているのですが、石井細明朝体と大蔵省印刷局書体の「解釈」の差が、平成明朝体 W3 を通じて、現代にまで残ってしまっている、ということをお明らかにしました。

さらに、新常用漢字表の字形を常用漢字表と乖離させないためには、どのよう

なデジタルフォントを用いるのが適当か、について考察し、現時点では戸籍統一文字が妥当だろう、という結論を得ました。少なくとも、平成明朝体のデザインをいじって、ムリヤリ常用漢字表に近づけるよりは、さっくり戸籍統一文字に乗り換えるべきだろうと思われます。あるいは、どうしても戸籍統一文字が使えないのならば、たとえば、平成明朝体とリュウミンの混合フォントという選択肢もあり得ます。

新常用漢字表2131字については、これで何とかなる可能性はありますが、一方、カッコ書きの旧字364字については、もう少しチェックが必要なように思われます。特に、「眞」や「龍」に関しては、常用漢字表は独特のデザインを持っていますので、デジタルフォントで表現する際には、かなり注意が必要だと考えられます。この点については、いずれ稿を改めて議論しましょう。